

人から人への橋渡しとなる環境ビジネスの展開

リユース

環境保全

株式会社 ヨコタコーポレーション

代表者：代表取締役社長 横田 賢二
所在地：徳島県吉野川市川島町学字辻4-2
設立：昭和35年4月
従業員数：220人(パート含む)
事業内容：ベアリングレース旋削加工、FA設備の設計・製作、リユースストアの運営、ショッピングセンターの運営 等

○事業・活動の概要

創業以来、自動車などの機械部品であるベアリングの旋削加工を主たる業務として営業していたが、オイルショックで注文が激減したのを機に、小売業にも事業を拡大することとし、昭和53年からホームセンターの運営を開始した。

その後、ホームセンターの運営で得たノウハウをいかすことができ、かつ企業ビジョンに掲げる「地域社会に貢献できる企業」につながる事業として、リユースストアの運営を行っている。

○「もったいないボランティアプロジェクト」への参加

日本では、使用済みの食器や衣類をリユース商品として販売することが難しく、リユース店に商品を持ち込んでも買取りを断られるケースが多い。しかし、日本ではリユース商品として販売することが難しい商品であっても、他の国では高品質の商品として売買が成立することも少なくない。

愛知県にある一般社団法人「もったいないボランティアプロジェクト」は、こうした日本では買い取るのが難しい商品や余剰在庫を海外でリユースし、その売上げの一部を発展途上国に寄付することで、途上国の教育支援に向けた活動を展開している。これまで、ミャンマーの孤児院(3か所)に対する寄付やボランティア訪問を通じて、新たな校舎の建設をサポートしてきたが、将来的には、ミャンマーにおいて図書館等の教育施設を充実させ、日本への留学支援や就労支援につなげたいと考えている。

ヨコタコーポレーションもこの取組に賛同し、本来は買い取ることが難しい商品を寄付として引き取り、集まった品々をプロジェクトに提供している。消費者にこのプロジェクトの趣旨を説明すると、「廃棄するぐらいなら社会貢献に役立ててもらいたい」と快く寄付してくれるとのことである。

○地域の環境保全に向けた取組

同社では、朝礼や研修の際に社長自らが企業理念である地域社会への貢献の重要性を発信し、企業全体で地域の環境保全活動に対し積極的に取り組んでいる。

例えば、二酸化炭素の排出量削減に向けた取組として、店舗ごとにガソリン使用量の目標値を設定して計画的な運用に努めるとともに、毎年6月には従業員一人一人に環境改善案を提出させている。環境改善案の提出は10年ほど前から実施しており、ときには事業に直結するような画期的な意見も出ている。

ほかにも、吉野川のアドプト活動として、毎月1回、事業所周辺の清掃を実施するなど、地域社会に貢献することが社内では慣習化しており、清掃活動に参加した新入社員も「人の役に立てるのが嬉しい」と意欲的に取り組んでいる。

○今後の活動

同社では、「ひとりひとりの行動はささやかでも、環境について真摯に考え、出来ることから取り組んでゆくことが、美しい大地と空、ひいては瑠璃色の地球環境保護への奔流になる」という理念の下、地域社会に貢献できる企業を目指し、「環境との調和」、「誠実な活動」、「真摯なる活動」、「清浄にする活動」、「信頼される活動」の5つの活動を推進していくことを宣言している。

今後も、「もったいないボランティアプロジェクト」への協力や地域の清掃活動等を続けつつ、森づくり事業への参加など新たな取組にも挑戦しながら、人から人への橋渡しとなる環境ビジネスを中心としたエシカル消費の取組を展開していく。



公表日：平成31年2月4日 取材：平成30年7月
外部リンク：<http://www.yokota-inc.com/>

